

梨

するするつと 包丁で 皮をむき

現れ出た 真つ白な果実を

私は ひとくち しやりつと かんだ

甘い果汁が 喉を過ぎたとき

この一夏の想い出が よみがえる

それなのに ほのかな酸味には

かすかに 秋の香りを かんじた

夜になると

涼しい風が 混ざり始めた

今日 この頃

沈みゆく夏の想い出と

次の季節の 予感を胸に

私は梨を

しやりつ

しやりつ

しやりつ

しやりつ

と かみしめた